

手先の動きと子どもの感情⑦



清水エミ子

◎手ごたえのないものにすがろうとする時の
手先の表情

①シャワーをあびる時

① シャワーをあびるじゅんばんをまっている間

ねえ、つめたい？

こわい？ いいきもち？

やだなあー。

おゆにしてくれればいいんだよ。

わー どうしよう、だんだんばんがくる。

こんどになっちゃったなあー。(ゆたか)

はじめて、プールに入る時、シャワーのじゅんばんをまちながらのひとりごとなのだ。

前にならんでいる友だちのパンツや、シャツ（海水着や海水パンツをつかわず、シャツとパンツでプールあそびをしている）をにぎりしめながら、よろこびと、不安との入りまじった状態である。

友だちのシャツのよこはらをわしづかみにしている子、自分のシャツやパンツのよこをくすり指でつまんでいる子。

水をあびないのに友だちのをみていっしょうけんめい手の平で

自分の顔をなでている（水を手でふいているつもりらしい）子、など。

手につかむもの、すがるもの、手ごたえのあるものに対しては積極的には、はっきりと手先や手の平は表情をあらわしてくる。

この時のひとつの表われとして、不安がある時にものにすがろうとする時、（自分または友だちのものなど）小指とくすり指でぎゅっとにぎっていることがわかった。

いつもつかっている人さし指や親指をつかわず、いつも、そえもののようにつかわれている小指とくすり指に、強い力が入ってにぎられているのだ。その時、人さし指や親指はわりにからく開かれていようだ。

㊦ シャワーをあびる

ワァワァとしゅんかん、つめたい水がかかった時、息をこらし、胸をどきどきさせ、手の平が、指先が、空をつかんだりしているのだ。

（自分で顔を洗わせてから頭からシャワーをあびさせるのだが）シャワーがなして、プールがあれば、こんなにびっくりしないのねえー。

あたしびっくりしてき、じぶんのあし（もも）ひっぱたいちゃったのよ、ピシャンて。そんなしちゃった。

このようにしゅんかんびっくりした時すがるものがない時の、指先、手の表われにはいろいろな表情があることがわかった。

・手の指を全部広げきって空をたくようにする。全身の力が手先に来ているように。

・空をつかんでのはなし、つかんでははなししている。手だけみていると赤ちゃんのにぎにぎをくりかえしてやっているような表われかた。

・手の平を上に向け、うでを上へのばし、シャワーの水をさえぎろうとして左右にふっている。

・左右にふるのではなく、上にあげた手の平を頭の上で上下してシャワーの水をどけようとけんめいの上につきあげている。

・体のよこにさげたままの手を、前後にふって何かにすがろうとしている。

・体のよこにさげた手がげんこつをにぎりしめて、こらえてい

る。
・目をつむったまま、ただむちゅうで手を体の前につき出し、つかむものをさがしている。

・顔の前の水を両手でかきわけ左右に円をかいている。
大別すると、このような表われになるようだ。

この時、気づいたのだが、シャワーをあびる前は、自分のシャツやパンツにすがっていたのに、いぎ、シャワーの水が体にかか

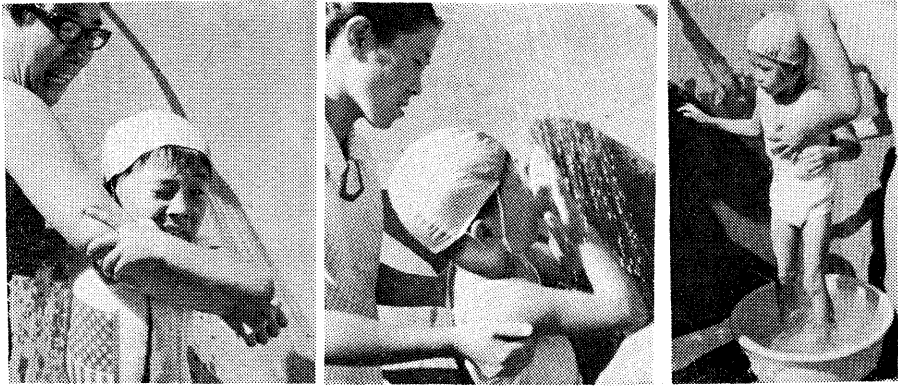


写真 シャワーをあびる時の子どものようす

ると、自分の体についているものにつきがることをわすれて、大半が空をつかもうとしているのだ。自分の体のものより、もっとしゅんかん的反應で、すがるものがない空をもつかもう、すがろうとしてしまうのだろうか？とふしぎに思うのだ。

も少なかったのだ。

・空をつかんでも不安な子どもたちは、よこで、体にシャワーの水をあびさせている私たち保育者の手や、体にしがみついている。

いかにしてシャワーの水からのがれようかとけんめいなのだがいったんプールの中に入ってしまうと、こんな状態でシャワーをあびた子まで、水から出るのをいやがり、水の中をにげまわっているのだ。

こんなことから、ただ水がこわいだけではないようだ。

しゅんかんの心の動き（おどろきや思いがけない気持ち）が表われてきていることがわかったのだ。

② プールの中で

① 足だけ水につかっている時（ももまで）

・まわりに友だちがいれば、ワーつめたいとか、おっかないなーとかことばにもすがりながら、女児だろうが男児だろうが、しがみつき合い、つかまり合っているようだ。そして顔をみ合わせ、笑い合っている。

（主題から少しずれるが、水の中での交わり、思いがけずにくれ合うための交わりを、保育者が助言したり、つたえてあげることによって、交わりが広がったり、深まったりすると強く感じた



写真 プールの中での子どものようす

のだ。

思いがけずにふれた交わりを保育者が、「あら○○

さんと○○君とぶつかったのね」と

か「○○さんがいてつかまれたから、水の中どころ

ばなくてよかったわね」と意識して

いなかっただことをも、もう一度気づ

かせることが大切だとつくづく感じ

るのだ。

④ おなかまで水につかった時

・まず水の中があるきにくくなる

ので、体のバランスを保つためもあるのだが、手をよこにさげて水面すれすれか、二、三センチ水中で、手の平をひろげ、水をおさえつけるようなかっこうである（あひるの足のようなかっこうにして）子どもたちが多くみられる。

・手のひじをよこにはってバランスをとってあるいる子は手の平はにぎられているようだ。

・水面でひろげ、中に入れるしゅんかん（水をつかむようなかっこうで）にぎっている子もあつた。

・おなかに手の平をあてて（手の平でおなかをおさえるようにして）あるいてくる。

・一見、何の抵抗も感じていないように平気で水の中をあるきまわっている子たちは、水面を指先でピシャピシャやりながら、もてあそんでいる。

またあるいてくるときは、手の平は外に向かって水のていこうをもてあそんでいるようすだ。

・水の中に入っただけであるき出せずにいる子などは、水面を指先でピシャピシャピシャピシャやってこまっていたし、水面に

にぎにぎして何とか不安をとり、心を安定させようとしているようすが、私につたわってくるのだ。

このように、おなかまで水につけて不安を感じて動き出せないでいる子どもたちに、私たち保育者は手をさしのべてあるかせよ



プールの中での子どもたちのようす

この六名全員が、親指を外にしてげんこつをかたくにぎりしめていた。

④ むねまで水につかった時

・こわがっている子には保育者が手をさしのべてつかえるようにするのだが、両手を取ってあげないとつかれない子も、自分の体の近くで手をにぎってくるのでなく、手を体の前方に出してすがつてくる。水の中でも子どもの体の方に保育者の手をひこうとはしないのだ。

・片手だけさしのべ、助ければよい子たちは、片手で保育者の

うとする。その時これらの子どもたちの手先は、にぎ

られていて、そして大半が、親指を外に出してにぎっているのだ。

四十名の子どもたちの中で六名が立っていただけだった(第一日目)。

手をにぎり、自分の片手は、体の前にのぼしている子、体のよこにのぼしている子とがあり、水の中では自分の体を手をつけている子はないようだ。

やはり水にたいする不安をどうしたら少なくできるか、水の中でバランスをとるのにはどうしたらよいかしゅんかん反応しているようだ。前やよこに出された手先は、かるく力が入り広げられている。指をそろえて水の中に入れていた子はいなかった。

だれかひとりぐらいいいものかと全員の手をみてまわったが、指をそろえていたり、体にくっつけていたりする子はいなかった。

無意識に力をぬき、指はかるくこをかいているようだった。

(これは私のプール第一日目の感じなのだが、手ごたえのない水を手の指先を少しまげ、こを作って、立体的に感じてつかまっような、たよったような感じで安定しているのではないだろうか。すがりにくい、手ごたえのないものに対し、指先はみずから立体感や、抵抗をもとめ、手ごたえを作っているのではないのかと感ずるのだ)

⑤ かたまで水につかった時

・おなかや胸までつかっても平気だった子まで、かたまで水につかると不安を感じるようだ。

まず大半がよこに手をのばし（かたの高さで）水面をつかもうとしてから立ち上がってしまう。

この時、前に手を出して水面をつかもうとする子はごく少ないことを発見した。水の中ではまず体のこうぞうに、一番すなおになり、反応するのだなと感じた。

体のよこの水面で、手をうおうさおうして立ちあがっている。

・子どもたちの自由なかつこうでかたまでつかえるようにした時は、手がわりに自分の体の近いところにある。

・足を前に出して、水底におしりをつくかつこうでかたまでつかえるようにすると、手は水面にあがってきて、もがき出す。

（このもがき、手の平、手くびのうごかしようによって体のうごくことを体験するようだ）

こわいから出よう（水から出る意）と思つてき、手で水をおしたら、おしりがもちあがつた。ういちゃつたよ。

手でやってみな、もにやもにややるの。

水の上のところで、手をひろげてやるんだよ。

ほらね、おしりがぶかんとしてくるでしょ。（こうじ）

こんなことをいいながら手は、体のよこの水面に、手の平や指はかるくひろげられて動いていたのだ。

背が高く、おしりを水底につけてすわつてもらくにくびが出る

子たちは、手の指で水面の水をもてあそんでいるようだった。

あるいてごらん、水って、おもたいよ。うまくあるけないでしよう。

おもいんじゃないくて、ぼくらをおしてくるのかもしれないね。でも、もぐりそうになって水につかまろうとしちゃつても、水ってちつとも、つかまれないね。（ひろゆき）

このように子どもたちは、手ごたえのない水と自分の手との関係を少しずつわかっているようなのだ。

④ 自由に水の中であそんでいる時

・水を手の平でたたいて、

水ってやわらかいのなたたくと手がいたいよ、やつてごらん。

水ってほんとは。かたいのかしらね。（のぼる）

水面をたたいている時の手の平や指も、パツと広げられ、力が入っている。女兒がまねてたたいた時、たったひとりが手の指をそろえてたたいていた。

・顔に水をつけている子たちの手も、うでから全部が水面に出て、指先は水面の水をつかもうとしたり、指先を水につけたり出したりしているのだ。

◎ 水の中での指や指先は、はっきり性格が表われてくるのではないだろうか。

① 外面的で、積極的と思われる子どもたち

・この子たちは、男、女児を問わず、水に対して積極的に進んでゆく。

・手くびをきゅっとおこし、手の平をひろげ、水を自分に近づけたり指先で水をかき、水をつかみ、足をはこんで動いている。

・水の中での、思いがけないできごとに対しても平気で、(もぐりそうになったり他の子とぶつかったり、水をかけられてしまった)水をつかんだり、手先をうごかして、自分の力でバランスを保とうとする。

・手ごたえのない水を、自分の力で手ごたえを作っている。指先と、手の平で、水をうけとめ、その抵抗でバランスを保っているようだ。

・こんな、子どもたちは、手だけではなく足でも、自分で抵抗をつかまえている。積極的な子は、水面からは手をあまり出さず、水の中で指を、平を、手をうごかしている。

② 内向的で消極的と思われる子どもたち

・この性格と思われる子どもたちには、男女差がみられるよう

に思われた。

男児たちは、はじめはベンギンのはねのような形で手をひろげ水の中をそのそとあるいている。手の平や指は広げられているのだ。しかし時間がたつてくるにしたがって手やうでは体からはなれていった。

かたまで水につかる時など、手の指をにぎにぎする回数がひじょうに多くなっていた。やはり指先が不安であること、そしてそれを安定させようと努力していることが指先からうかがえた。

女児は男児よりも、もっと不安を表わし体をこわばらせ、水面がかたいもののように手先に力をいれて、水面においていた。

保育者のさしのべる指や手先がもぎれてしまうのではないかと思うほどのすごい力だがみついてくるし、すぐプールサイドにつかまってしまう。プールサイドで、なまあたたかくなった水で指先がいじり、かきまわしているのだ。

このようにプール第一目の子どもたちの水の中での手先は、いろいろな表われをみせてくれた。

しかし、水の中に入ると、手先がとくにすなおになり、きんちようしている中でも、体のもつ、手の、指のもつ自然の状態の水に対してることがわかった。体のよこで、手ごたえのないものから、手ごたえをつかんで安定しようとしているのだ。